

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2024年3月27日
作成 高齢者支援センター	忠生第1
作成者	神成 泰行

1.開催日時	2024年3月16日	(土)	14:00	～	16:00	
2.会場	忠生市民センター・オンライン					
3.主催センター	忠生1	・	忠生2	・		
4.参加人数	83名					
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター	17人	<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター	1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者	6人	(うち、医師	1人)	<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者	13人
	<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	6人	<input checked="" type="checkbox"/> 老人会	1人	<input checked="" type="checkbox"/> 住民	7人
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会	23人	<input type="checkbox"/> 警察	人	<input checked="" type="checkbox"/> 行政	4人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	(障がい者支援センター1人、障がい者施設3人、社協1人)				
6.開催テーマ	支え合いの町忠生「災害と感染症の中での私たちの暮らし」					
7.地域課題	(1)課題設定の背景					
	災害時の自助・共助への備えについて、全体的に見るとまだまだ意識が低く、備えを実行していない現状がある。災害時には救急・消防・警察も来ることができないことを知り、それぞれで実行できる自助について知恵を出し合い、それぞれの立場でどのような協力ができるのかを検討し、実行に移していく必要がある。					
8.会議の内容	(2)検討した地域課題					
	災害時に行政の支援が届かないであろう72時間を、地域住民がどのように行動したら生活を継続できるのか。					
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	本会議：集合(場所:忠生市民センター)・傍聴：オンライン配信(GW参加なし)。					
	①講話 講師：市防災課 井上氏「防災講話・発災時の医療について」 西村内科 西村先生「医療面での『自助・共助』の備えについて」 おくぬし歯科 奥主先生「歯科の立場からの備えについて」 ②グループワーク(GW)メンバー構成：多職種(施設・障がい・在宅サービス・地域住民) 10グループに分かれ、ファシリテーターは支援センター職員で構成 GW内容：講話の感想、各々が「自助」「共助」に向け何ができるかの意見交換実施 →各自で水、薬、歯ブラシ等の備えが必要。救急車や消防団の対応は難しい。救助が必要な高齢者や世帯の把握は個人情報の壁があるので難しい。ケアマネ、民生委員の持つ情報を自治会が連携ができるといいが現実にはできない。高齢化によるマンパワー不足や近所付き合いの減少、自治会加入率の低下等の課題がでた。民生委員と自治会の連携、安否確認は黄色い旗等で検討。開業医は災害時は閉鎖するので備えが必要。避難場所はキャバンティーを超えてしまい入れるのか不安。 ③グループ発表 10グループのうち3グループが発表し情報共有 ④西村先生より総評。					
10.その他	課題：大規模災害時には救急車や病院を頼ることができない。 救助が必要な高齢者や世帯の把握が、個人情報の壁により状況把握が難しい。 →対応策：自助の備えと共助が必要。 →今後の展開：ケアマネ、民生委員、自治会の連携や日頃の繋がりをつくる必要がある。水、薬、歯ブラシ等必要な備えを地域で情報共有する等、今回の内容をまとめ忠生地域での「自助・共助の備え」についてを地域に発信していくための方法を検討する。					

医療と介護の連携支援センター 確認日

3月 26日